

BASE Vol.127

実践的基礎知識 育てる投資編(8)

2020/12/03

＜企業収益の伸びをとらえる ～中長期の利益成長は大きくなり得る～＞

企業収益の伸びをとらえる ～中長期の利益成長は大きくなり得る～

前回、世界経済の伸びは企業利益の伸びを反映したものと説明しました。企業は毎年企業努力を重ね、利益を伸ばしていこうとします。今回は企業の利益成長と株式のリターンの関係について確認してみましょう。

企業の中長期の利益成長による株価上昇は割高感を伴わない

図表1をご覧ください。たとえば毎年前年比で5%ずつ利益が伸びていく場合、数ヶ月の間にはほとんど利益は伸びず、1年経過してもわずかに5%の伸びですが、それが10年続けば約63%も伸びることになり、15年では2.1倍にもなります。すると、スタート時点と比べて多少PER(株価収益率)が低下しても株価は大きく上昇することになります。中長期的に株式投資を行った場合、こうした利益成長が大きく積み上がっていくことが期待できます。また、利益の一部が還元される毎年の配当金も伸びていくことが期待できます。

図表1:経過期間ごと、年率成長率ごとの早見表
(2倍未満は増加率表示、2倍以上は倍数表示)

成長率 年数	1%	5%	10%	15%	20%
1年	1.0%	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%
3年	3.0%	15.8%	33.1%	52.1%	72.8%
5年	5.1%	27.6%	61.1%	2.0倍	2.5倍
7年	7.2%	40.7%	94.9%	2.7倍	3.6倍
10年	10.5%	62.9%	2.6倍	4.0倍	6.2倍
15年	16.1%	2.1倍	4.2倍	8.1倍	15.4倍
20年	22.0%	2.7倍	6.7倍	16.4倍	38.3倍
30年	34.8%	4.3倍	17.4倍	66.2倍	237.4倍

中長期で先進国株式のパフォーマンスを確認しましょう

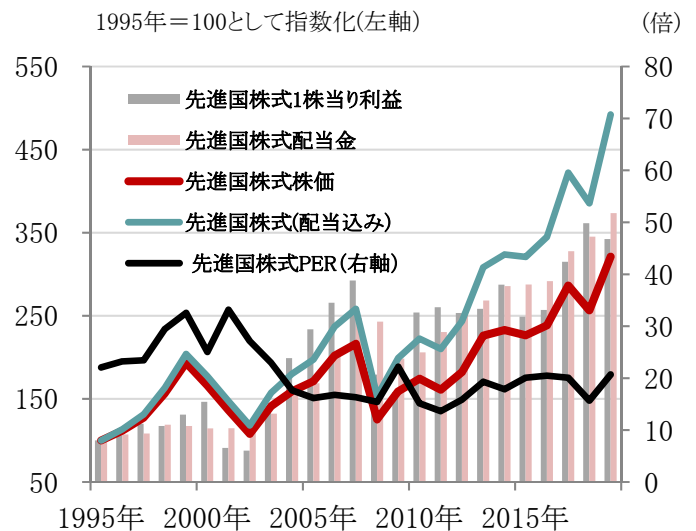
図表2を確認しますと、先進国株式の1995年末の1株当たり利益を100とすると、途中、アジア通貨危機やリーマンショックなど様々な金融危機を経験しながらも、2019年末には1株当たり利益は約242%上昇して約342になっています。一方、PERは途中上下動しながらも2019年末には21倍となっており、1995年末の22倍と比べるとやや低下しています。この間の株価上昇率は約221%で1株当たり利益の上昇率よりもやや低いです。つまり、この間に株価は約3.2倍(約321)になったにも関わらず、利益面から見て割高にはなっていません。

$$(1+1株当たり利益変化率242\%) \times (1+PER変化率-5\%) - 1$$

≒ 株価上昇率221%

また、この間の企業利益の伸びを反映して配当金も1995年から約274%増えており、積み上がった配当金が配当込みのパフォーマンスを大きく下支えし、配当込みでは約392%のリターンとなっています。中長期の利益成長に着目した株式投資が大切であることがご理解いただけたでしょうか。

図表2:先進国株式のパフォーマンスと1株当たり利益、配当金、PERの推移 (期間:1995年12月～2019年12月)



いずれも米ドルベース。先進国株式:MSCIワールド指数
出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

当資料をご利用にあたっての注意事項等

■当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。■運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。■当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。■当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は預金等ではなく、元本および利回りの保証はありません。■投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。■当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。※当資料で使用したMSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。